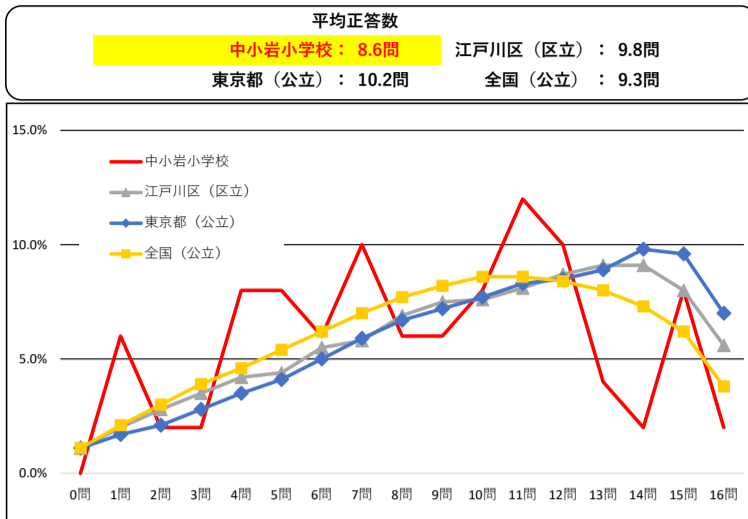


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】中小岩小学校

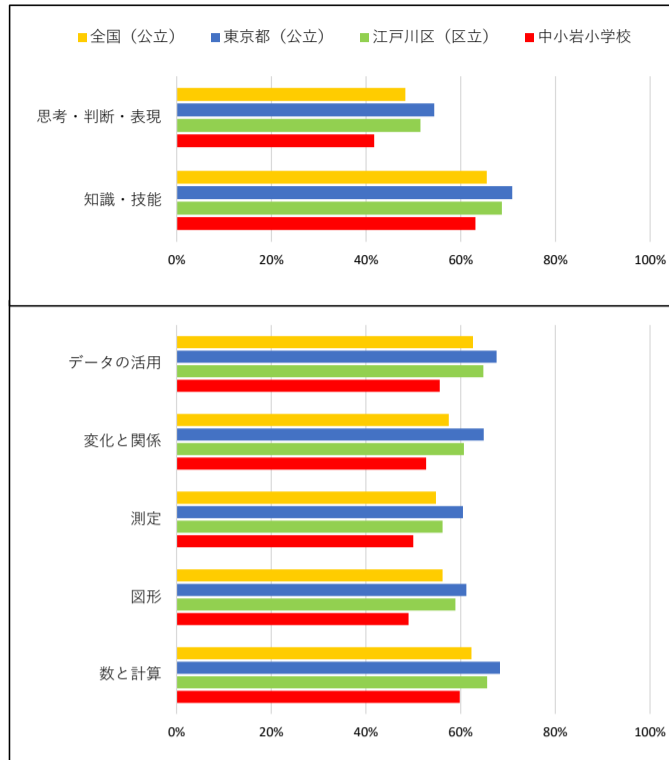
正答数分布



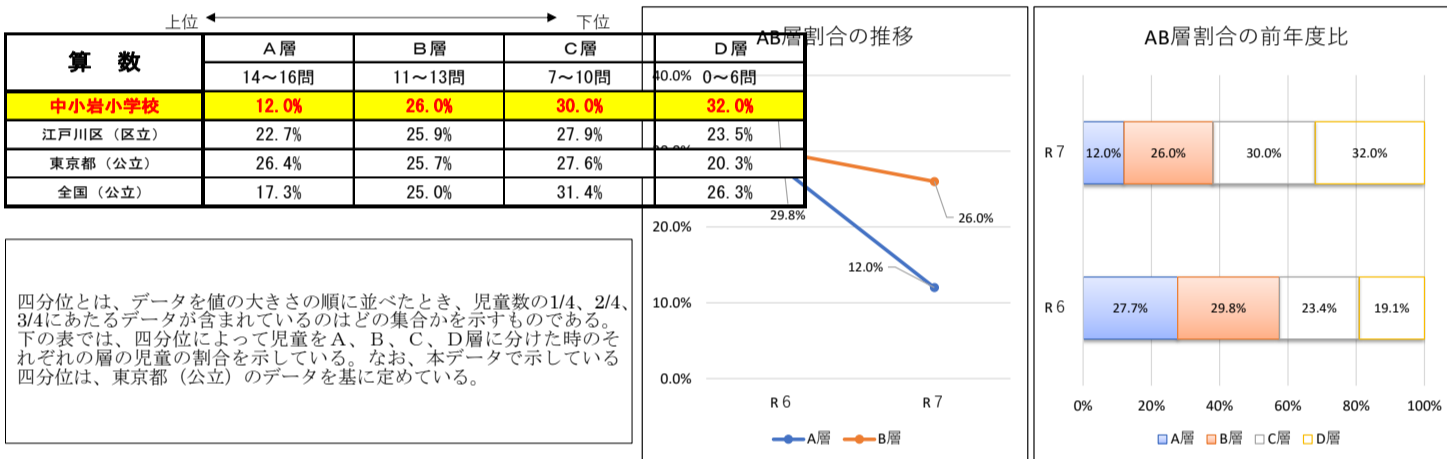
【平均正答率の差】

中小岩小学校	54%
江戸川区（区立）	61%
東京都（公立）	64%
全国（公立）	58%
都との差（ポイント）	-10.0

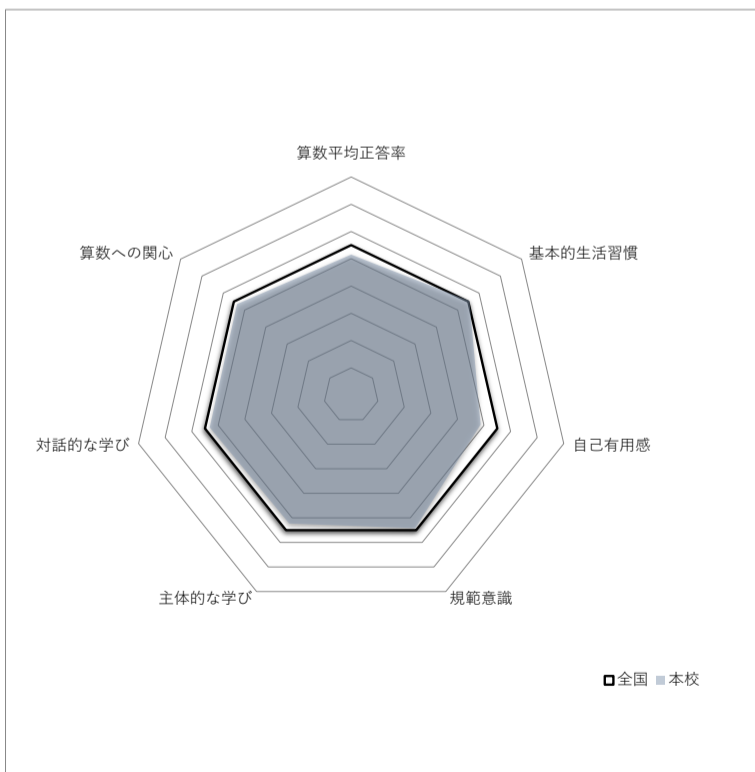
「領域別」の結果



四分位における割合（都全体の四分位による）



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》
 学力状況を示すチャートから、「基礎的な知識や技能」及び「規範意識」については肯定的な回答の割合が高い。一方で、算数平均正答率のほかに、自己有用感や主体的な学びに対する肯定的な回答の割合が、全国平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》
 家庭学習の習慣が定着するよう、その重要性とともに、具体的な取組の事例を紹介する。個人面談の機会を通して、家庭と学習状況を共有し、家庭学習に対する理解を図り協力を求める。地域に対しては、ホームページにおいて本校の学習状況の取組について情報を発信したり、学習内容に応じた出前授業を要請したりする。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
 令和7年度と令和6年度の平均正答率を比較すると、A・B層ともに減少傾向が見られ、このうちA層は15.7ポイント減を示している。算数の基礎的な知識の定着が見られるものの、図形や変化と関係では図形の定義を理解したり、関係の変化から必要な値を求めたりする内容について、十分理解できていない。
 算数の学習については、東京ベーシック方式に基づいて、レディネステストの結果に児童の希望を加味した習熟度別による学習を行っている。また、どのコースも児童の習熟の状況を踏まえて、教科書の内容の理解を図られるよう取り組んでいる。
- ・教員の指導力向上
 調査結果から、課題である図形や変化と関係について、基礎的な知識の定着を図るとともに、問題文から分かる事実や推量できることを整理し、問題を解くための方法を適切に活用できる力を高める必要がある。そのために求められる教員の指導力を向上させるため、児童の置きやすいポイントを把握すること、それに対する有効な指導法を選択し実践する力を高める必要がある。
- ・基礎学力の保障
 基礎学力の定着を図るためには、児童が教科書の内容を正しく理解する力を高めることが重要である。問題文を正確に読み取るために、定義や算数の学習で使われることばや記号、問題文を正しく読むことを重点とした学習指導を推進する。加えて、基本問題を繰り返し取組時間や必要な補充指導を継続して行う。
- ・学習習慣の確立
 調査の結果からも、日々の学習にコツコツと向き合っている児童ほど、確かな理解と考える力が伸びていることが分かった。そのため、学校では「毎日学習すること」を当たり前にできるように、授業中の振り返りや、家庭学習の仕方の指導を行う。特に、短い時間でも続けること、分からないところをそのままにしないこと、自分の考えをノートに書いて整理することを重視する。子どもたちが自分の力で学びを進められるよう、「学習習慣の確立」を大切にしていこう。
- ・AB層の育成
 教科書の内容を正しく読み取る力を学力の基礎に位置付け、そのうえで、児童の習熟に合わせた学習指導を行う。また、問題解決型学習に取り組み、協働して問題を解く機会を充実させ、学び合いの学習活動を通して個々の学力の向上を図る。調査の結果から、考えを整理したり比較したりする場面で、さらに力を高める必要がある。そのため授業では、答えだけでなく「どう考えたのか」を伝える活動や、意見を交流する場面を増やし、より深く考える経験を積むことで、児童が自信をもって学べる環境を整える。